



の | み | が | わ

2010年4月30日発行（通算第57号）
連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24
発行 大坪庄吾方 呑川の会
呑川の会 HP

<http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

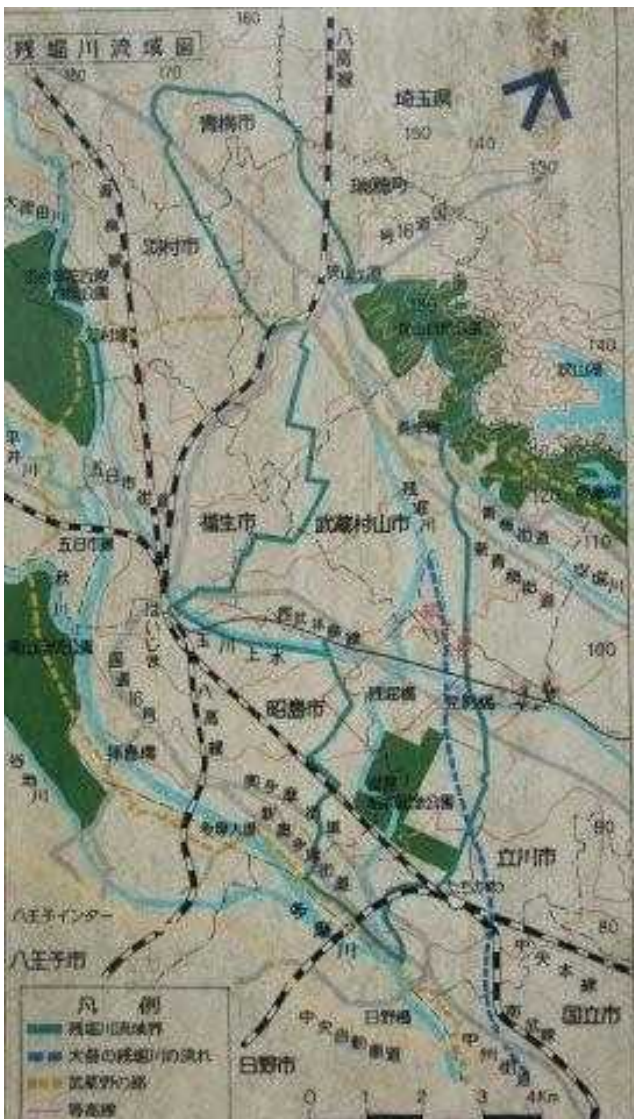
高橋会員 HP

<http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



玉川上水・残堀川お花見ウォーキング 白石琇朗 記

4月3日（土）暖かな快晴の下、立川駅に13人が集合して10時40分発の「北くるりんバス」に乗り砂川3番北で下車し、玉川上水の金比羅橋からウォーキングを開始した。



玉川上水は上流・中流・下流の3区間で水の流れが異なり、上流（12キロ）のこの区間は羽村取水口からのきれいな上水で東村山浄水場まで送水されている。中流（18キロ）は清流復活区間で、多摩川上流水再生センターの高度処理水を小平監視所下流から流し高井戸近辺で神田川に流入、その下流（13キロ）は暗渠の排水路区間となっている。

一方、残堀川は数万年前に多摩川が立川段丘を造った時の名残の川で、元は蛇掘川と呼ばれていて、大蛇ののたうち回った跡が川となって残り、大蛇とは暴れ川の「多摩川」そのもので、現在の多摩川から直線距離で10キロほど離れている「狭山池」は、古多摩川が流れていた頃に深くえぐられて窪地になった所と言われているからである。

そして現在は狭山丘陵の西に位置する瑞穂町箱根ヶ崎の狭山池から南東に14.5キロ流れ、立川市の南端の柴崎町で多摩川に流入する1級河川である。

1654年に玉川上水が出来るまでは、砂川三番の見影橋付近を通り、曙町2丁目を経て矢川につながり、青柳から谷保を抜けて

府中用水に流れ込む長さ30キロの川で、今の2倍以上の大きな川だった。

しかし上水の完成時に少し上流の天王橋付近に繋ぎ替えられると共に、独立していた狭山池の水も残堀川に繋ぎ上水の助水として利用された。1908年（明治41）に水の汚れで上水から切りはなされ。区画整理で流路はいまの上水橋で玉川上水を残堀川の下にサイフォン式で潜って交差するように大幅に付け替え改修された。



玉川上水は桜の花盛り

昭和57年（1982）氾濫対策として流域整備がなされた以降、表層（関東ローム層）を流れていた河道を掘り下げた為、砂礫層に伏流し易くなり、

雨量の少ない時期になると頻りに水流の見られない「瀬切れ」を起し、残念ながら空堀になってしまうことになった。

を起し、残念ながら空堀になってしまった。

今回も昭和記念公園内は空堀状態であった。

見影橋付近の桜の花がたくさんあり、綺麗でした。

残堀川の上宿橋の上流から兩岸に桜の並木が昭和記念公園の玉川上水口まで続き、さらさら流れる綺麗な湧水の流れと満開の花そして黄色菜の花とマッチした風情が素晴らしかった。



残堀川

昭和記念公園に入り「桜の園」の桜の下で輪になって待ち遠しかった昼食の小宴会となった。昼食後、日本庭園からトンボの湿地と溪流広の湿地広場を通り園内の残堀川と柴崎用水沿いを歩き「あけぼの口」から出て立川、立川駅で3時半過ぎに解散となった。

呑川の会定例会のお知らせ

2010年度の活動計画をたてるため、下記の日程で定例会を行うことにしました。ぜひ出席ください。

日時 2010年5月13日（木）午後6時半より

会場 蒲田小学校 会議室 当日表示します。

内容 2009年度の活動報告、2010年度の活動計画を検討します

呑川沿岸（工大橋～河口）の樹木（第9回）

可児 昭雄

春になり桜のシーズンを迎える時期と同時に、「椿（ツバキ）」の花も日本の春を飾ることとなる。椿は万葉集にも歌われているように平安時代から慕われ、江戸時代には品種改良が盛んになり椿ブームが起き、工芸品・染織品に椿の花が描かれ人気が出た。一方、花がぼとりと首から落ちるということで武家には嫌われ、家紋にはあまり使用されなかった。

椿は花が美しく日陰に強く、緑の葉は艶やかで冬には落葉せず美しく、一般の家庭にも植えられていたが、現在は庭も狭く、山茶花（サザンカ）と同じように害虫（チャドクガ）の被害が多いため嫌われている。



椿（ツバキ）

- ・ツバキ科
- ・常緑高木
- ・種子より椿油を採取

参考文献

- 「日本の樹木」
辻井達一著 中公新書
- 「四季の花ごよみ」 講談社
- 「庭木と花木」
松中泰邦・中村恒夫編
誠文堂新光社

呑川の魚等の生息環境についての要望書の提出

呑川は現在 新幹線下流側の未改修区間の改修工事を実施中ですが、今年度には、その中で最重要地点である道々橋下流の下水道横断地点の改修工事及び新幹線～久根橋の工事が設計・施工されます。それに対しては呑川の会としてこれまでも対応を検討し、建設局へ申し入れていましたが、今年度施工予定区間についての要望と併せて私たちの期待する呑川の魚・野鳥の生息環境に対する長期的な施策の検討の要望まとめ、3月11日に第二建設事務所、3月26日建設局河川部計画課に提出しました。

呑川は今年度の改修工事が完成すれば、50ミリ対応工事は完了します。都内にはまだ50ミリ対応が完了してない河川もあり、洪水対策が優先するのは止むを得ないでしょう。また建設局も昨年度から呑川の護岸緑化工事を行っています。その中で工大橋まで鮎・うなぎ等を生息させるための新たな改修工事の実現のためにはまず大田区全体としての強い意志表示が不可欠でしょう。

今後は呑川の会、呑川流域ネットワーク連絡協議会を軸に広くサポーターを増やす

ことが重要でしょう。



左右の写真とも21年度施工護岸緑化工事
右は鷹の橋～谷中橋～東橋 左岸 桜は9本で 下のつる性植物はヘデラ・カナリエンス
奥には雪谷中学校の桜が薄く見える

提言書は次の通りです。

2010年3月11日

東京都建設局河川部長
廣木良司 様

呑川の会

代表 大坪庄吾

呑川の改修工事についての提言

拝啓 貴職 ますますご清祥のこと慶賀に存じます。また日頃は当会活動にご協力いただきお礼申し上げます。

ところで現在 呑川道々橋付近を貴部にて改修工事中ですが、その工事内容によっては呑川に生息する生物に大きな影響を与えます。当会では呑川の生物環境に関する長期的な目標を次のように設定しております。

- 1 工大橋まで鮎、鰻等の魚が生息できること
- 2 野鳥が呑川で営巣すること

そこで上記目標を達成するため、現在計画中の改修工事に対する具体的な施策、および現在魚が生息していない新幹線横断箇所より上流の整備検討方針について提言を取りまとめました。下記の通りご提案申しあげますので、充分ご検討下さいますようお願い申し上げます。

勿論このような目標は簡単に達成できることではなく、また今後の呑川流域を中心とした住民の意識のあり方に負うところが大きいと考えております。しかし私たちは住民も豊かな生物が生息する呑川を期待すると考え、そのシンボルとして前述長期目標を達成したいものと考えますので是非斟酌くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 改修区間に対する具体的な施策

川全体に変化をつける。

魚の生息には河川内に変化があることが重要です。従って、限られたスペースの中ではあるが、その中で極力、流れの曲線化、瀬と淵、流水の滞留する区域と流れが速い地点、落差工の維持、避難場所の確保、河床に蛇籠の設置、砂・小石の確保等を検討し、実施する。

水生植物を現在以上に確保する。

河川水の浄化装置や魚の隠れ家として有用である水生植物を現在以上に河川内に確保する。

護岸壁の緑化・連続的な河畔林を確保する。

美観、昆虫の生息場所確保、ヒートアイランド対策等から呑川への植樹・緑化は必要である。また、植樹・緑化によってカワセミ等の野鳥の営巣場所を確保する。

下水道横断地点上流側、下流側にある程度の深みのある静水域を残す。

川に変化を与える意味から、落差工は必要である。しかし現在の落差は魚の遡上を妨げるので、一部に魚道を設け、遡上を可能とするように配慮する。

2. 新幹線上流地区をより豊かに生き物を生息させるための施策の検討

工大橋まで鮎、鰻等の魚が生息し、野鳥が営巣するという目標を達成するために、また将来都民の環境への要望が高まることに備え、まず現段階から大雑把な素案でも具体的な施策案の検討を開始していく。これについては可能であれば当会も全面的に検討に協力する。現時点で当会が必要と考える施策は、上記1中～である。



左の写真は現在施工中の
仲之橋～八幡橋間のその7工事
写真上部が下流方向

以上

(福井 甫記)

【編集後記】

今回は、5ページだてにし後半の6ページから8ページまでは小林賢司会員の「清溪川をはじめとするソウルの河川改修事業」の報告の前半を掲載することにしました。後半は次号にします。編集の都合上、一部の写真を省略させていただきました。なお、6月26日(土)には総会を行います。会場、議題などは後日お知らせします。

また、5月の{呑川ネット}の集まりは、5月15日(土)午前10時より大田区生活センター2階講座室にて行います。

編集 大坪庄吾